



## 第3回WG提案内容についての結果報告

2019年11月14日

輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社

# 1. 第3回WG結果報告

第3回WGでの意見・要望は下記の通り。

意見・要望	検討内容（回答）
<p>&lt;第2回WG提案内容についての結果報告&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. AMA/KKA業務の保存期間について、現在は10日間であるが2週間ほどはあった方が良いと感じる。</li><li>2. GW配下のパッケージソフトを完全に廃止するのは困るといった意見があった。機能を絞るなどの対応を検討いただきたい。</li><li>3. 意見の取りまとめ期限が1週間となっているが、ヒアリングをする上では時間的に少々厳しいと感じる。</li></ol>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. ご意見として承った。</li><li>2. GW配下用のパッケージソフトは第6次NACCS更改時に廃止を打ち出したが、すぐには対応できないとの事から暫定的に残した背景があるため、第7次NACCSでは廃止をさせていただきたい。基本的には自社側で開発いただく機能であると考えているため、自社にて開発をお願いしたい。</li><li>3. ご意見の取りまとめ期限について、1週間とさせていただいているが、基本仕様のとりまとめまでにいただければ問題ない。</li></ol>
<p>&lt;ACL情報登録業務の改善&gt; ※海上保稅・貨物WGのみ</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. カスタマイズの最小枚数が2枚から1枚にまとまると助かる。コンテナが2本以上ある場合は2枚目以降でもよいと思う。カスタマイズ機能は輸出者に出力内容を確認してもらう際に利用している。改行や禁則文字が改善されないのであれば輸出者へも周知してほしい。</li><li>2. 業務送信前の入力画面印刷時はカスタマイズされず5枚出力されてしまう。送信前情報についてもカスタマイズされるようにしてもらいたい。</li><li>3. アタッチシート電子化については、MSX業務での添付送信をイメージしている。船会社様次第ではあるが、民業業務間でのMSX業務に相当する機能があれば手間が減る。</li></ol>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 意見として承った。通知先として輸出者にも直接出力されれば海貨業者の業務負荷軽減に繋がるのではと考えている。また、改行については、Enterキーを利用した改行は困難であるものの、特定の文字入力することにより、改行を実現することは可能と考える。禁則文字の入力については、「_（アンダーバー）」、「~（チルダ）」は対応することは可能である。ただし、温度の単位である「°（度）」については、2バイト文字であることから対応は困難である。</li><li>2. 意見として承った。  (WG後追記) 送信画面のカスタマイズは電文構成を大きく変更することとなるので、対応は難しいと考える。</li><li>3. 第6次NACCS仕様検討時も検討したが、PDFでの添付は完全なる電子化ではなく船会社でファイルを見ながら入力をする負担増加となる等の理由で見送った経緯がある。電子化を進めていく事を念頭に置いた上で、各業種からの意見を聞きながら詳細仕様で再度検討させていただく。</li></ol>

# 1. 第3回WG結果報告

第3回WGでの意見・要望は下記の通り。

意見・要望	検討内容（回答）
<p>&lt;船会社船舶受委託関係の見直し&gt; ※海上保稅・貨物WGのみ 入出港業務の受委託は不要だと思う。第5次NACCS以降、在来船に関しては受委託業務の実施に関係なく入出港業務が可能となっている。受委託登録を一度リセットし、コンテナ船に関して再度登録をし直すことでよいと思う。また、不必要な受委託登録はしないようにと業界内においても周知したい。設定依頼があった時も必要が無ければ不要な旨を伝えて欲しい。</p>	<p>受委託登録の整理は実施するべきであり、受委託情報を一度全てきれいにしていきたいと考えている。NACCS不参加船会社側の設定をより迅速にできないか、またNACCSセンター側の業務負担の軽減も併せて考えている。</p>
<p>&lt;輸出コンテナ総重量証明(VGM)対応&gt; ※海上保稅・貨物WGのみ NACCSとサイバーポートの情報連携も実施しないという観点も含まれているのか。</p>	<p>情報連携基盤との連携は、第7次NACCSの更改コンセプトにも掲げている通りである。その中で、サイバーポートとの連携が実現されれば情報連携も考えられるが、サイバーポートの詳細が決まっていない現時点では明確な回答は出来かねる。今後、サイバーポートを含む連携基盤の動向も視野に入れつつ検討を行っていく。</p>
<p>&lt;添付業務の見直し&gt; ※輸出入通関WGのみ</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 1ファイル容量と合計ファイル容量が一致している業務も存在している。今回の提案で合計ファイル容量を30MBとするのであれば1ファイル容量も30MBとしない理由は何か。</li><li>2. 持ち帰り後、関係者と議論する中で1ファイル容量を合計ファイル容量に合わせてほしいといった意見が挙がる可能性がある。</li><li>3. 上限の引き上げにより税関など受信者側には相当な負荷が掛かることが懸念されるので、通常業務に影響が及ばないような配慮をお願いしたい。</li><li>4. ファイル容量の制限については、社内の運用の煩雑化に繋がるケース（AEO申告時など）があるため、可能な限り、第6次NACCS稼働中での実現をお願いしたい。また、MSB業務など各業務に存在する通信欄において、改行することが出来ないことから各種情報を入力する際に苦慮している。</li></ol>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 回線の負荷が懸念されることから、1ファイル容量を10MBと設定させていただいている。また、今回提案の数値は利用者アンケートや意見交換等を通していただいたご意見をもとに提案させていただいている。</li><li>2. 送信者、受信者双方の回線負荷等の影響を配慮すると今回の提案内容が現実的であることをご理解いただきたい。</li><li>3. 必要以上の上限の引き上げは受信者側の負荷による懸念が大きいと認識している。なお、税関側には事前確認しており、この容量であれば大きな影響はないとの回答は得ている。</li><li>4. ご意見として承った。 改行については、Enterキーを利用した改行は困難であるものの、特定の文字を入力することにより、改行を実現するなど代替案について、今後検討していきたいと考えている。</li></ol>

# 1. 第3回WG結果報告

第3回WGでの意見・要望は下記の通り。

意見・要望	検討内容（回答）
<p>&lt;システム対象業務の見直し&gt; ※海上保税・貨物WGのみ (輸出/輸入許可通知書の持込みに関するプログラム変更要望について)</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 輸出許可と搬出登録があれば確認できる上、余計な作業を生む可能性もあり不要だと思う。また、名古屋では国内他港向けの輸出の場合を除いて、このような運用はない。 他のCFSに持ち込む際に、内貨なのか、許可済貨物なのか不明なので、現場で蔵置するエリアを判別するために利用している可能性がある。また、税関より許可書を残しておくよう指導もあった。</li><li>2. 現在、ドライバーから検査指定票を受け取り、CYの検査指定票と対査しているが、予備申告の段階で検査指定票を持ち込まれる場合があり、都度、本申告が実施されているか否かを確認している。そのため、予備申告の段階では指定票が出力されない様にしてもらいたい。 (※p7、8に関連意見・要望)</li></ol>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 紙媒体での保管はペーパーレス化に逆行すると考えられ、電子化推進の観点から、項番2番、3番については検討から外させていただきます。(事務局)  台帳管理を適切に行っていれば許可書は必要ない。 (WG長(東京税関))</li><li>2. ご意見として承った。</li></ol>

# 1. 第3回WG結果報告

第3回WGでの意見・要望は下記の通り。

意見・要望	検討内容（回答）
<p>&lt;システム対象業務の見直し&gt; ※航空保税・貨物WGのみ (プログラム変更要望 1. 航空会社 項番2 IMF11業務について)</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 過去、IAW業務で積荷目録事前報告情報が確認出来ていた。当時の仕様に戻すことは出来ないか。</li><li>2. AWB番号によるソーティングはどのような方法を想定しているのか。到着した貨物の書類は順番が整理されていない状態なので、ソーティング出来ればIMF11業務上のAWB情報と対差確認の際に、該当のAWBを見つけやすくなる。</li><li>3. 現行仕様はどうなっているのか。</li><li>4. ソーティングに伴うシステム負荷の観点については、パッケージソフト側（クライアント側）でソーティング処理を行えば、NACCSサーバ側の負荷は抑えられるのではないか。処理方法にはサーバ側、クライアント側の2つの考え方があると思う。</li></ol> <p>(プログラム変更要望 1. 航空会社 項番3 CFS01業務について)</p> <ol style="list-style-type: none"><li>5. 「Y」入力の有無に関係なく自動出力される仕様について、出力条件は、パラメータ化してU業務で選択出来る仕組みが良いのではないか。</li></ol>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 次回の単年度プログラム変更要望でご提案いただき、現行で対応が難しいという場合には第7次NACCSでの検討とさせていただきます。</li></ol> <p>(事務局よりWG後補足) 航空貨物に係る事前報告制度の施行に伴い、積荷目録事前報告情報のための新規照会業務（IAA業務）を設けたため、ADM01業務で登録された情報をIAW業務の照会対象から外した経緯がある。積荷目録事前報告情報の照会については、IAA業務をご利用いただきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>2. 現時点では、AWB番号のどの数字を検索キーとするかなど詳細まで検討は行っていない。具体的な内容については詳細仕様検討の場にて検討させていただく。</li><li>3. 現行仕様については、仕様を確認する必要があり、回答出来かねるが、データベースに登録された順番となっている。現時点での想定としては検索する度に並べ替えを行う場合、システムへの影響が懸念される。</li><li>4. ご意見として承った。</li><li>5. ご意見として承った。</li></ol>

# 1. 第3回WG結果報告

第3回WGでの意見・要望は下記の通り。

意見・要望	検討内容（回答）
<p>&lt;システム対象業務の見直し&gt; ※航空保税・貨物WGのみ (プログラム変更要望 1. 航空会社 項番4 CLE業務について)</p> <p>6. 本件のニーズはある。CLE業務を複数行おう場合には、アラートが出力される挙動が望ましい。</p> <p>7. 現行仕様は、スプリットのケースの場合、2回目以降のCLE業務は出来ない仕様となっているのか。1回目に成田空港で出発登録を行い、2回目以降の貨物を羽田空港から日を跨いで複数回実施しようと試みた際に、処理が行えなかった事例がある。</p> <p>(プログラム変更要望 2. 機用品業 項番2 SHS業務について)</p> <p>8. 機用品のフローを改めて確認し、それに沿った形の要望にすべきだと考えているため、成田のケータリング分科会と連携して意見の取り纏めさせていただきたい。</p>	<p>6. ご意見として承った。具体的な仕様については詳細で検討させていただきます。</p> <p>7. 現行仕様でもスプリットの場合には対応出来ている認識である。質問いただいた事例については別途個別に確認させていただく。</p> <p>8. 承知した。引き続きご協力をお願いしたい。</p> <p>(事務局より追加補足) システム対象業務の見直しは、基本的にはプログラム変更要望となると思うが、第7次NACCSの更改に当たっては、出来る限りの電子化・ペーパーレス化を実現していきたいと考えている。現場の運用の中で例えば、海上では許可書等が出力されているにも関わらず紙を持ち込むケースが存在する。航空ではRSV業務などもあるが、基本的に電子化をして紙をなくしていきたいと考えている。今後もシステム対象業務の見直しの中で、新規業務或いは現行業務の見直しなどが出てくると思うが、紙による運用が残っていれば、皆様からの意見をいただきながら電子化、ペーパーレス化を進めていきたい。</p>

# 1. 第3回WG結果報告

第3回WGでの意見・要望は下記の通り。

意見・要望	検討内容（回答）
<p>&lt;システム対象業務の見直し&gt; ※輸出入通関WGのみ</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 輸出取止再輸入について、一般申告と同様に特定申告の場合においても手続きをシステムで実施可能としていただきたい。また、特例輸入に関する要望として、引取申告と納税申告を分けて行う際に利用できる一括特例申告業務が非常に煩雑である。リストを出力して関連付けを行うプロセスの簡易化が実現出来れば引取申告と納税申告の利用数も向上するのではないかと考えている。</li><li>2. 今回の資料中に記載されている8案件以外は第7次NACCSでは検討しないということか。</li></ol> <p>・ 項番1（修正申告事項登録(AMA業務)について）</p> <ol style="list-style-type: none"><li>3. 修正用の課税標準を求めるにあたり、事前に税率・税額も算出してしまうことから、自動計算機能についてはさほど重要性は感じない。むしろ、「当初輸入申告情報呼出し（DLI02業務）」の見直しをお願いしたい。DLI02業務を夜間に実施すると翌朝10時頃を過ぎないと呼び出せない。また、他社の通関分の呼び出しは可能としていただきたい。情報セキュリティの観点については、システムの仕様にてカバー出来る面もあると思うので、併せて検討をお願いしたい。</li><li>4. AMA業務に関して、IDA業務の仕組みが流用できるのであれば、HSコードを入れることによる品名（英字）の自動補完機能を検討いただきたい。</li></ol>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. ご意見として承った。</li><li>2. 資料に記載している案件については、新規での機能構築が必要な案件をピックアップしており、開発コストにも影響があることから必要性等のご意見を伺いたいという意図である。資料以外の案件については、今後の詳細仕様検討の場にて必要性を踏まえた実施の要否や実現方法を検討する予定である。</li><li>3. 当初輸入申告情報呼出しに関連する要望については、第2回WGにて提示した要望一欄にも含まれているため把握している。なお、10時から18時までに実施した内容については当日に呼び出すことが可能であり、当該時間の延長についてもご要望として既にいただいているため、今後検討させていただく。（事務局）</li></ol> <p>他社分の呼び出しについてのニーズは理解しているものの、他社分の情報がNACCSを介して渡されることがルートとして適切であるか否か等、利便性と情報セキュリティのバランスを鑑みつつ、慎重に検討していく必要がある。（WG長）</p> <ol style="list-style-type: none"><li>4. ご意見として承った。</li></ol>

# 1. 第3回WG結果報告

第3回WGでの意見・要望は下記の通り。

意見・要望	検討内容（回答）
<p>&lt;システム対象業務の見直し&gt; ※<u>輸出入通関WGのみ</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 項番3（ATAカルネ通関のシステム化について）<ol style="list-style-type: none"><li>5. カルネ手帳の申告については、各地域の取り扱い方法やルールを統一化した上で、システムのあり方を検討していただきたい。</li></ol></li><li>・ 項番6（輸入別送品申告について）<ol style="list-style-type: none"><li>6. 輸入別送品申告に関して、現状は申告書の原本と輸入者の個人情報（パスポート氏名等と入国印のあるページの写し）をいただき、通関業者にて管理しなければならない。当該情報の電子化についてシステムと制度を絡めたシステム改修を検討いただきたい。なお、運用方法については別途整理が必要ではあるものの、原本のやり取りを郵送や書留など紙媒体での運用が残っている状況の解決に繋がると考えている。</li></ol></li><li>・ 項番8（検査指定票の対査業務システム化について）<ol style="list-style-type: none"><li>7. 検査指定票の対査について、各港での運用やシステムが異なることから、各地の運用方法を意識した仕様検討をお願いしたい。システム化することにより、現状の運用よりも業務負担が増えてしまう地域が現れることを懸念している。税関にもご協力をお願いしたい。</li><li>8. 予備申告時の検査指定票出力について、事前に検査指定票を送付して搬入と同時に対査を実施しているため、予備申告のタイミングで検査指定票が出力されないと困る。システムや運用が確立されるまでは予備申告時の検査指定票出力は継続いただきたい。また、予備申告時点での検査指定票出力を前提とした運用を構築している。 (※p3、2に関連意見・要望)</li></ol></li></ul>	<ol style="list-style-type: none"><li>5. ご意見として承った。</li><li>6. ご意見に関して承った。税関、関税局との連携を前提として、対応を検討していきたい。（事務局）  税関としてもご要望を承った。関税局と意見調整させていただき対応を検討させていただく。（東京税関）</li><li>7. ご意見として承った。第7次NACCSにおいては関係者と協力し、ペーパーレス化を推進していきたいと考えている。（事務局）  税関としてもペーパーレス化の必要性については十分に理解しており、また、関係者間の協力は不可欠である。今後も働きかけは実施していきたい。（WG長（東京税関））</li><li>8. ご意見として承った。</li></ol>

# 1. 第3回WG結果報告

第3回WGでの意見・要望は下記の通り。

意見・要望	検討内容（回答）
<p>&lt;次期システムへの移行方針&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>第6次NACCS更改時は5時間45分間停止し、業務影響が大きかった。第7次NACCS更改時の移行時間については、短縮を目指した検討を行ってほしい。</li><li>停止の時間帯に関しても考慮してほしい。アンケート等で利用者の意見を把握した上で曜日や時間帯を検討してほしい。</li></ol>	<ol style="list-style-type: none"><li>移行時間の短縮化についての要望は理解しているものの、第6次NACCS更改時の移行に比べ、貿易管理サブシステムの統合により移行データが増大することから、現時点では短縮は困難であると想定している。第6次NACCSの中年度更改での移行時間を参考にしつつ、第7次NACCSの移行時間についても検討を行っていく。</li><li>第7次NACCS更改については、時間帯や曜日に関する検討を行いつつ、一括移行を目指す。</li></ol>
<p>&lt;定期保守の見直し&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>保守を行う曜日を日曜日深夜～月曜日早朝に変更してほしい。また、変更にあたっては、作業開始時間を早め、トラブル発生時のリトライ時間を確保してほしい。</li><li>保守作業を実施する曜日や時間帯の検討にあたっては、トラフィック状況を調査の上、検討してほしい。</li><li>サーバは冗長構成をとっていると思うが、レスポンスが多少遅くなっても良いので無停止にできないか。24時間365日無停止の仕組みを考えてほしい。</li><li>リリースやプログラム変更などを減らさなくても、無停止は実現できると思うので、前向きに検討してほしい。</li></ol>	<ol style="list-style-type: none"><li>保守作業の時間帯や曜日については今後検討をさせていただく。</li><li>ご意見として承った。今後トラフィック状況を配慮し検討させていただく。</li><li>無停止についてはコスト的な側面もあるほか、安定的な運用の観点からも保守時間が必要と考えている。無停止を目指す場合には、プログラム変更を制限する必要が生じるかもしれない。ただし、いただいたご意見を参考にシステム構成について検討させていただく。 なお、具体的なシステム構成などの詳細については時間短縮等の議論も含めて、ベンダー決定後の検討となることから、今回の提案内容が変更となる可能性もある。</li><li>第6次NACCSでは、一部オンライン中のリリースを行えるようにしている。第7次NACCSのシステム構成検討の中でも停止を伴わない仕組みの検討に努めたい。</li></ol>

# 1. 第3回WG結果報告

第3回WGでの意見・要望は下記の通り。

意見・要望	検討内容（回答）
<p>&lt;システムの信頼性について&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>netNACCSで発生した障害の一因がデジタル証明書に関連するものと聞いていることから、デジタル証明書についても考えた方が良いのではないかと。</li> <li>業務トランザクションの処理時間について、時間帯によっては処理時間を長く費やしているケースもあり、ハードウェアを拡充するだけでは限界があると感じている。ハードウェア以外にも申告方法など、法改正を含めて抜本的な対策が必要ではないだろうか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>デジタル証明書の見直しについては、第2回WGで提案させていただいた通り、別議題にて検討させていただく。</li> <li>業務量増加等も踏まえてシステム構成を十分に検討していきたい。また、法改正については関税局等との連携を前提として検討していきたいと考えている。</li> </ol>
<p>&lt;EDI仕様（電文形式）について&gt;</p> <p>各種電文の差異は利用者にとってどのような影響があるのか。</p>	<p>基本的に第6次NACCSと同様であり新たに意識いただく観点はない。</p>
<p>&lt;EDIFACTのバージョンアップ対応&gt;</p> <p>質問事項等なし</p>	
<p>&lt;全体を通じての意見&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>官民業務部分でのペーパーレス化は進んできていると感じているが、民民業務部分では進んでおらず、マニュアルによる作業が残っている。企業間や業界団体間で議論をしても並行線に終わるケースも多いので、NACCSセンターが主導的に動いて進めてほしい。</li> <li>「第2回WG提案内容についての結果報告」資料にはモバイル端末の対応に関して、通関業法上の営業所の制約がある業務についてはモバイル化対象外との記載があるが、通関業法上の営業所の制約についても並行して見直しを行いつつ、システムの検討を実施いただきたい。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ペーパーレス化については積極的に取り組んでいきたいと考えているが、皆様の協力無くしては実現できない。皆様の協力をお願いしたい。（事務局）</li> </ol> <p>特に海上では未だに紙中心の文化が根強く残っている。税関・NACCSも皆様と一緒に同じ（ペーパーレス推進という）方向を向いて進んでいきたいと考えているので、是非ともご協力願いたい。（WG長（東京税関））</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>WGの内容は関税局内で共有しており、法改正も含め実現方法について引き続き検討を行っていく。（財務省関税局）</li> </ol>

※WG等の議事要旨は、以下「NACCSセンターホームページ」にて公表をさせていただいております。

[https://www.naccs.jp/archives/7g\\_naccs/senmon/index.html](https://www.naccs.jp/archives/7g_naccs/senmon/index.html)

# 1. 第3回WG結果報告

## 【WG後のご意見・要望①】

項番	議題	項目	意見・要望	検討内容（回答）
1	システム対象業務の見直し		<p>・特例輸入申告に係る関税は、輸入者が直ちに納付できるよう改善                      現行システムでは、期限内特例申告を行った場合には、翌月の21日に納付書が一括してNACCSから配信されているが、2月、12月等月末までの日数が少ない月は輸入者の社内処理が間に合わないケースがある。こうした事態を避けるため、納付書の配信時期を自由に設定可能としていただきたい。</p>	<p>ご意見として承った。</p> <p>個社毎の配信時期設定はシステムへの影響が大きく対応が困難であることから、配信タイミングの変更について詳細仕様にて検討する。</p>
2	システム対象業務の見直し		<p>・輸出許可取消の手続きに関するNACCS専門業務メニューの構築                      平成29年10月以降、一般輸出者が行う輸出申告の輸出取止め再輸入手続きはNACCSの専用業務メニューを利用して処理することが可能となったが、AEO輸出者が行う特例輸出貨物の輸出許可取消の申請はNACCSの汎用業務メニューを利用したの申請処理となっている。このため、AEO輸出者の行う輸出許可取消申請に係る手続きの処理時間が一般の輸出者が行うものと比較して時間を多く要するという不合理な状況であることから、手続きの迅速化の観点からAEO輸出者が行う輸出許可取消申請についてもNACCSの専用メニューを構築していただきたい。</p>	<p>ご意見として承った。</p> <p>※WG内においても同様のご意見あり。</p>
3	GW配下用パッケージソフトの廃止		<p>・「提供の継続」                      ①100以上の出力情報を取り扱っていることから当初開発に相当の経費と時間を必要とする。                      ②制度改正等により様式等の変更があった場合に、その都度改修する必要がある。</p>	<p>GW配下用のパッケージソフトは第6次NACCS更改時に廃止を打ち出したが、すぐには対応できないとの事から暫定的に残している背景があるため、第7次NACCSでは廃止をしたいと考えている。基本的には自社側で開発いただく機能であると考えているため、自社開発をお願いしたい。                      自社開発対応できない電文については、宛先管理機能の強化の提案させていただいたnetNACCS等での受信にて対応するというご理解いただきたい。</p>
4	GW配下用パッケージソフトの廃止		<p>・「宛先管理機能の強化」                      ①電文の種類ごとに利用者が指定したnetNACCSの端末に送信していただきたい。相当の件数があるので、電文ごとに端末を指定する必要がある。                      ②自社のシステムでNACCSのデータを使用しているため、netNACCSと同じ情報を自社のGWサーバにも送信していただきたい。</p>	<p>宛先管理機能の強化は、受信電文を自社システム側で処理対応できない場合に、netNACCS等で受信できる事を目的として強化を図る。自社システムにて受信データの利用対応する際には、当該機能は利用しないこととなる。</p>

# 1. 第3回WG結果報告

## -WGの提案議題の結果-

NO	WG	議題	結果	
1	第1回	業務仕様の考え方	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
2	第1回	オンライン業務の統廃合	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。 但し、廃止提案対象の「一括特例申告関連業務」については、廃止を見送ることとさせていただきます。	○
3	第1回	WebNACCS対象業務の拡大	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
4	第1回	インターネット経由の新たな自社システム接続方式	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
5	第1回	メール処理方式の廃止	メール処理方式は廃止せず、第7次においても引き続き継続提供させていただきます。	×
6	第1回	国際連携機能と各種デジタルプラットフォーム連携について	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
7	第2回	管理統計資料の見直し	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
8	第2回	ユーザーインターフェースの改善	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
9	第2回	モバイル端末への対応	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
10	第2回	デジタル証明書の見直し	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
11	第2回	GW配下用パッケージソフトの廃止	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
12	第2回	EXC(非同期)対象電文の見直し	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
13	第2回	最新技術の実用性	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
14	第2回	システム制限値の見直し	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
15	第2回	貨物状況通知サービスの提供	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
16	第2回 第3回	システム対象業務の見直し	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。 なお、電子化およびペーパーレス化とならない新規業務については、見送らせていただきます。	○

# 1. 第3回WG結果報告

## -WGの提案議題の結果-

NO	WG	議題	結果	
17	第3回	ACL情報登録業務の改善	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
18	第3回	船会社船舶受委託関係の見直し	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
19	第3回	輸出コンテナ総重量証明（VGM）対応	提案の通り、NACCSでの対応を見送らせていただきます。なお、今後の状況を見守りつつ必要に応じて議論を再開させていただきます。	○
20	第3回	添付業務の見直し	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
21	第3回	次期システムへの移行方針	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
22	第3回	定期保守の見直し	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
23	第3回	システムの信頼性について	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
24	第3回	EDI仕様（電文形式）	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○
25	第3回	EDIFACTのバージョンアップ対応	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。	○